

くるにゃん通信



公式ホームページ QR コード

愛媛県介護支援専門員協会のマスコットキャラクター「くるにゃん」です出来るだけ多くの介護支援専門員が集い、盛会となることを左手にこめています。



No.9 (2022年5月)

編集・発行 愛媛県介護支援専門員協会

● 令和4年度法人化へ移行

本協会は令和4年度に一般社団法人愛媛県介護支援専門員協会に移行いたします。今後のスケジュールとして、総会にて任意団体を解散



新協会に入会手続きをお願いします。

何が変わる？

- 法人名義で契約や銀行口座の開設ができるようになる
- 任意団体よりも社会的信用力があがる。

● これから

法人化によって、行政や関係機関などから参加要請が増えたり、事業を受託できるようになります。また、介護支援専門員の職能団体として社会に広く認知されると同時に、社会的な責任や倫理観を強く求められることとなります。反面、法律で定められた事務作業や運営の煩雑さに対応できる組織体制の構築が急務の課題です。厳しい道のりですが、ひとりひとりの介護支援専門員が胸を張り、やりがいをもって働けるように協会の活動を充実させていきたいと思えます。

専門職の定義の特徴

- ① 実践的な基盤となる専門的知識体系と教育体系を有し、訓練によって獲得できるものであること
- ② 社会の安寧と公共の利益に貢献していること
- ③ 職務活動において自律性を有していること
- ④ 専門性・倫理性を保証する免許や認定の制度があること
- ⑤ 職能団体をもち、倫理綱領を有していること

「身近な事例で学ぶケアマネジャーの倫理」宮脇美保子・石山麗子著
P.17・18より引用 中央法規出版株式会社

内 容

- 令和3年度事例研究発表会
- トピックス
ステップアップ研修 in 中予
日本介護支援専門員協会愛媛県支部からのお知らせ



●令和3年度 第2回全体研修 第2回事例研究発表会

講師：愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻

柴 珠実氏

日時 令和4年3月12日（土）

13:00～16:30

会場：オンライン開催



矢川会長



柴 先生

『がん終末期を迎えた本人を含むチームアプローチ』～訪問看護・訪問介護との連携を考える～

訪問看護ステーション愛媛 稲田 佳子さん



亡くなる1年以上前から対象者やその家族への関わりがあった。その中で利用者や家族の生活状況、大事にしていること、価値観などを理解し共有することができていたことで終末期の支援の内容が深まった。また、介護支援専門員が訪問看護と訪問介護のつなぎ役として連携促進に関わり、チームアプローチの強化に関与したことが在宅での看取りを支えた要因と分析する。

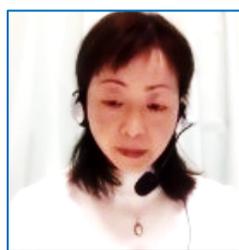
『肺癌の合併症で苦しんだ本人を支えた家族と介護支援専門員』～在宅生活を余儀なくされた本人を在宅で支えるために～ 在宅介護支援センター 指定居宅介護支援事業所フレンド 森長 寿幸さん

せん妄状態が続きレスパイト入院やショートステイの利用が困難になり、在宅での療養を余儀なくされた70歳の男性。介護支援専門員は利用者が安心して生活できる体制づくり、家族の不安が軽減できるアプローチと同時に精神科や一般病院の医師と連携し、BPSDの改善に取り組む。やがて肺癌の症状の進行で全身状態が低下する中で短期入所先を確保し、入所時に永眠された。介護支援専門員はそれぞれの局面に理解者として寄り添う重要性を振り返る。



『入院がきっかけで8050問題が顕在化した家族への支援』～新しい一歩を踏み出すために支援者が何ができるか考える～

居宅介護支援事業所うちこ園 向井 真理子さん



認知症のある90歳の女性と精神疾患のある息子の二人暮らし。息子は母の衰えや生活障害に気づき対処することが難しい。息子から女性のデイサービス利用をやめさせたいという訴えが出た時、背景に生活のスキルが不足していることに気づく。介護支援専門員が根気よく作業工程を説明し自立を促すことに成功する。成功の要因としては、息子のSOSに気づけたこと、疾病特性を理解し分かりやすく伝えたこと、できたことを賞賛し励ますなど信頼関係を築けたことと分析する。

発表者からの感想（アンケートから抜粋）

今回事例研究発表会に参加させていただき、どうもありがとうございました。柴先生や関係者の皆様には、長い時間をかけてご指導いただき、大変お世話になりました。発表後の質問に対する適切な答えや言葉が叱咤に出てこず、助けていただきました。せっかくの質問に、きちんと答えを返せず反省しています。ほかの発表を拝見させていただき良い刺激になりました。普段はひとつひとつのケースを振り返る時間や余裕がありませんが、今回はじっくり向き合い、振り返ることができて良かったです。今はほっとして一歩前に進めたかどうか分かりません。半歩くらいは進めたかも。雲間の隙間に少し光が射したような気持ちです。

『知的障害者と暮らす母親が要介護者となった時』～権利を守るために必要な連携とは～



居宅介護支援事業所四つ葉 石川 香織さん

80歳代、要介護1の利用者（母）と知的障害のある60歳代の長女の二人暮らし。介護支援専門員が所属する法人内に相談支援センターが併設し地域包括支援センターや障害の相談支援、近隣などと協働した事例。介入当初は支援に対する拒否があったが、最終的に利用者は施設入所、長女は一人暮らしを始める。介護支援専門員としてはもう少し親子で暮らせたのではないかと迷いが残る。この事例の振り返りとして、意思決定支援ガイドラインのプロセスを踏めていなかったこと、地域ケア会議などで地域住民を巻き込んで議論に参画してもらうことで「迷い」の背景が明確になるのではないかと分析する。

『仕事と介護の両立に悩む家族介護者を支える為に』～介護離職を防ぐ介護支援専門員の家族介護者支援～

宇摩ケアプランセンター 谷 千里さん

利用者は90歳代の男性で胆石、胆管炎で入院をきっかけにADLが低下。関西に住む一人娘に同居を望み娘は仕事をやめるべきか悩む。介護支援専門員は利用者に対して重層的な支援をチームで行い、娘には解決志向アプローチの考え方をを用いて問題解決のための自己決定を促す。その結果、利用者はADLの改善と必要な支援が受けられる安心感を得て独居生活の継続が可能になった。娘は仕事と介護の両立の道を見出すことができた。家族の力を単なる介護力と捉えるのではなく、それぞれに生活や人生の課題を抱えた存在として支援する重要性をまとめた。



参加者からの感想（アンケートから抜粋）

- ・5人の事例研究を聴講し、どれもパワーポイントと発表の際の言葉の選び方で、複雑かつ困難な事例を分かりやすく伝えようとする工夫が随所に感じられました。クライアント・家族が抱える問題は様々ですが、ケアマネとしての一歩踏み込んだ役割や関わり方が学べたように思います。
- ・去年からパワーアップして素晴らしい事例研究発表会でした。柴先生の講評にもありましたが、同じ事例ではなくてもこの振り返りはすごく意義のあるもので、今後活かすことができるはずです。発表者の皆様、お疲れ様でした。そしてありがとうございました。
- ・発表された方々の事例に対しての関わり方やその時の気持ちなども聴くことができたので、より事例の内容が分かりやすかった。引用書籍などが書かれており、何かの時には参考になると思った。ご利用者を取り巻く環境が様々で、いろいろな問題を抱えており難しい対応が求められるようになってきたと感じている。担当になったケアマネの力量や経験値が問われていくと思う。

柴珠美先生から一言

こんにちは、柴と申します。共済会館の会議室では、あるドラマのセリフがしばしば私の頭の中に浮かんでいました。それは『事件は会議室で起きてるんじゃない、現場で起きてるんだ！』という、あれです（ジェネレーションギャップで学生に通じないことも多々）。みなさんが経験している現象がいかに面白いのか、深いか、魅力的かというのが私の気づきであり、その現象を客観的に見える化する作業のお手伝いが私の役割です。来年度も、新たな研修生の方々を通じて学ぶ機会をいただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

※来年度の講師も引き続きお願いしています。皆様のご応募をお待ちしています。

ステップアップ研修

ステップアップ研修 in 中予

「障害サービスと介護保険サービスの連携」

講師 日本訪問看護財団松山相談センター 管理者 西村 幸 先生

日時 令和4年1月16日(日) 13:30~15:30

WEB 開催のみ



特別研修

「ZOOM を利用した研修の開催と参加の方法」

講師 愛媛県介護支援専門員協会 担当理事

日時 令和4年2月20日(日) 10:00~15:30

場所 えひめ共済会館



※新型コロナウイルス感染症拡大に伴い延期とさせていただきます。開催時期は決まり次第、お知らせいたします。

各研修で申込みや研修後のアンケートなどデジタル化を進めています。事務局の作業量の削減や

経費の節減の為にもご協力お願いいたします。

また協会への各種お問い合わせは、緊急時以外

メールでのお問い合わせをお願いいたします。

電話対応も担当理事が通常の勤務時間内に

行っており、直ぐに対応出来ない場合が多いので、

ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

よろしくお願いします



入会案内

愛媛県介護支援専門員協会では各種研修などを企画・運営して

おります。ネットワークづくりや多様化するニーズに沿って

介護支援専門員としてのスキルアップの場にご活用ください。

会員は愛媛県介護支援専門員協会が開催する各種研修が

受講出来ます。年会費は3000円です。

公式ホームページやFacebookでも研修情報や活動内容を

紹介しておりますので、ぜひご覧下さい。



発行元 愛媛県介護支援専門員協会

〒790-8585

愛媛県松山市三番町4丁目5-3

愛媛県医師会会館内

愛媛県介護支援専門員協会事務局

TEL:089-968-1572 FAX:089-968-1573

Mail:ecma20150418@gmail.com

編集後記：

愛媛県介護支援専門員協会は大きな転機を迎えています。診療報酬改定の影響やサ高住での適正なケアプラン作成における調査研究も気になります。福祉用具の単独利用の議論も審議中です。お腹いっぱいです。(K)

●日本介護支援専門員協会愛媛県支部からのお知らせ

日本介護支援専門員協会に入会して、あなたの声を国に直接届けませんか

日本介護支援専門員協会は

介護支援専門員に係る法改正や介護報酬・基準改正に対応するべく活動しています。

多くの介護支援専門員の現場の声を集約することが必要です。

法で守られた資格だからこそ、自らその資格を守り、

公正・中立なケアマネジメントができるよう、

よりよい環境に変えていきましょう。

❀あなたの入会をお待ちしています❀

介護支援専門員の多くの意見を反映した組織として社会的に認知されるためには会員数を増やす必要があります。

入会のお問い合わせについては



愛媛県介護支援専門員協会

入会金 なし
年会費 3,000円

日本介護支援専門員協会 HP

入会金 1,000円
年会費 5,000円

・愛媛県の協会事務局に連絡すると担当者から入会申し込み書を郵送またはメールでお送りします。

・日本の協会のホームページの入会フォームに記入し登録する。
日本協会から県協会に仮登録の連絡が入ります。

日本介護支援専門員協会の

4月・5月は入会金が免除されます。

会員になると

- ・メールマガジンの配信
- ・広報紙「JCMA だより」をお届けします。
- ・ホームページ会員専用サイトを閲覧できます。
- ・協会が発行・斡旋する書籍を会員価格で購入できます。
- ・協会主催の各種研修会・大会等に会員価格で参加できます。
- ・各種調査等へ参加が制度に反映させる動きにつながります。

県協会との連携

- ・日本介護支援専門員協会は介護支援専門員の全国組織です。愛媛県の協会員であって、更に日本協会に入会して愛媛県支部を構成しています。



おかげさまで、少しずつ入会者が増えています。今年も愛媛県支部での活動を考えたいと思います。

